「集まるものと別れるもの」（抜粋）　黒滝泰
昭和25年　富丘中学校開校時の川沿中学校生徒の気持ち

『川沿中学校のあゆみ』掲載

（略）川沿小中学校の歴史の中に統合と分離が当時の子ども心に希望と寂しさを与えたことを思い出さない訳にはゆかないのです。なぜならば私たち第４回卒業生も寂しさを味わい分離されたクラス、小学校５クラス、中学２クラスの一員だからなのです。

新制中学制度の発足と共に福山小学校の一部は川沿中学校に進学し、今までいた少人数が教室いっぱいの友だちを得て夢が大きく広がり、各分野でのライバルも出現し、勉強も一段と気合いが入りました。

やがて１年が過ぎ、２学年の始業式に集まった時、当然隣にいるべきもっとも親しい友人数人が吹雪でもないのにまったくその姿がないのです。

ざわめく私たちに告げられた担当教師の言葉は、富丘中学校設立を知らせるむなしさだけでした。

そのことの問題点は通学距離の短縮が主であったろうけれど、おとなの都合主義のような気がして子どもの心では悲しんだものです。（略）

中学新設でにわか造りの体育館内の寒い教室や、広くなったグランド中で花を咲かせていた桜の古木、高く大きく母校の目印のように数キロ先から見えたポプラなど、遠足で登ったイワケシ山と共に私たちの一生を通じて心の中に存在し、消え去るものではありません。

＊昭和22年４月１日　学制改革により常呂村立川沿小学校と改称
　　常呂村立川沿中学校併置認可
　　４月１日　常呂村立川沿中学校開校
＊昭和25年４月１日　富丘小中学校開校（川沿中学校から19人が移籍）